地域教会防災ネットワーク作りに向けて

２０１３年１２月に内閣府中央防災会議より、首都圏直下型地震の被害予測アップデートが発表されました。それによると死者が前回想定の２．５倍の23000人、（うち、火災による死者が７割の１６０００人）となっています。災害時は同時多発的に火災、負傷者が多数発生し、消防署などの公共の助けはすぐに来られません。また、５割で断水、停電が起こり復旧に１ヶ月程度かかるもようです。一般道、JRも復旧に１ヶ月程度と交通も長期的にマヒ。そうすると、どうしても歩いてゆける距離で、お互い助け合って行くことが必要になってくるのです。

この地にある神の家族である教会がまずお互いどう助け合っていけるのか、また、どう地域の助けになっていけるのか、関係者が顔を合わせて話し合う必要があるのではないでしょうか。その必要を覚えて、クラッシュジャパン次期東京災害対策担当の栗原が、クラッシュの本部のある東久留米、清瀬、新座エリアの教会に呼びかけネットワークを立ち上げを、お手伝いさせて頂きました。信徒も参加して、すでに回を重ねるごとに、仲間意識が生まれてきています。現時点で１０数教会とキリスト教主義学校、老人ホームなど４団体がネットワークされています。台東区は、２０１３年秋、上野ホーリネス教会の松本牧師が呼びかけ人となり５つほどの教会がネットワークされました。また、板橋区の牧師達が必要を感じ、２０１４年４月ネットワークを立ち上げました。２月には、新宿区大久保通り教会防災ネットワークもスタートしました。２０１５年１月２５日には町田防災ネットワークが立ち上がりました。

ネットワークの目的は「助けー助けられる、顔の見える防災コミュニティの創出」です。さらに、東京の他のエリアでのネットワーク立ち上げにも、ご協力させて頂きたいと思っております。

お招きいただければ、栗原が１時間の内容（前半、首都圏直下地震と南海トラフ地震の被害予測、後半、教会ネットワークの趣旨説明）でパワーポイントにてプレゼンさせて頂きます。関心ある牧師先生方をお招きいただき、防災ネットワーク立ち上げ集会を開きませんか？

DRCnet首都圏災害対応プロジェクト

クラッシュジャパン　次期東京災害対策担当

地域教会防災ネットワーク　コーディネータ-

日本防災市機構公認　防災士

栗原　一芳

crashkazu@gmail.com

２０１５年５月